

サッカーがもっと好きになる少年少女大会2016



熱中症対策の準備について

2016年8月13日（土）、14日（日）

試合は、熱中症対策の実施要領（別紙）のように対策を実施します。
各参加チームおよび個人参加者は、次の対策品を準備の上、試合に臨んでください。

- ① 飲料水、スポーツドリンク
※天然芝の競技場ですが、スポーツドリンクの持ち込みを許可します。天然芝にこぼさないように扱ってください。
- ② 頸部・脇下・鼠径部等を冷やす為の水、氷、アイスバッグ等

※簡易テントの設置場所について

簡易テントをお持ちいただいた場合、朝日サッカー場の観客席に設置してください。その際、風に飛ばされないよう、しっかり固定してください。

以上

サッカーがもっと好きになる少年少女大会2016
2016年8月13日、14日

NPO法人府中YSS

熱中症対策の実施要領

WBGT値 (乾球温度)	対 策		2016年度ガイドライン (東京都少年サッカー連盟)
31℃以上 (35℃以上)	5	※原則中止	※原則中止
	4	※やむを得ず実施の場合 ①前半・後半の中間にCooling Break3分をとる。 (試合開始後6分のアウトオブプレーよりCooling Breakを始める) ②ハーフタイムを8分としCooling Breakとする。	※やむを得ずの場合 ☆対策「A」「B」 ☆Cooling Break(ハーフタイムおよび前後半1回)
28～31℃ (31～35℃)	3	①前半・後半の中間にCooling Break3分をとる。 (試合開始後6分のアウトオブプレーよりCooling Breakを始める) ②ハーフタイムを8分としCooling Breakとする。	☆対策「A」 ☆飲水タイム(前後半)および ☆Cooling Break(ハーフタイムなど)
25～28℃ (28～31℃)	2	①前半・後半の中間に飲水タイムをとる。 (試合開始後7.5分のアウトオブプレーより飲水タイムとし、飲水終了後、直ちにインプレーに入る。 飲水タイムは試合時間に含める。) ②ハーフタイムを8分としCooling Breakとする。	☆対策「A」 ☆飲水タイム(前後半) または ☆Cooling Break(ハーフタイムなど)
21～25℃ (24～28℃)	1	①前半・後半の中間に飲水タイムをとる。 (試合開始後7.5分のアウトオブプレーより飲水タイムとし、飲水終了後、直ちにインプレーに入る。 飲水タイムは試合時間に含める。) ②ハーフタイムは5分とする。	☆対策「A」 ☆飲水タイム(前後半)

1. WBGT温度計は、CDコート本部付近に設置し、このWBGT温度により全コートで上記対策を行います。
2. 審判と各チームの指導者は、各コート本部でWBGT温度を確認し、試合を行ってください。

(参考)

Cooling Break(クーリング ブレイク)とは

・前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に、3分間の[Cooling Break]を設定し、選手と審判員は以下の行動をとる。

- ①日陰のあるベンチに入り、休む。
- ②氷、アイスバッグ等でカラダ(頸部・脇下・鼠径部)を冷やし、必要に応じて着替えをする。
- ③水だけでなくスポーツドリンク等を飲む。

(留意点)

・戦術的な指示も許容する。

飲水タイムとは

・前後半それぞれの半分の時間を経過した頃、アウトオブプレーの時に、主審が指示して全員に飲水させる。

- ・選手はそれぞれのチームのベンチ前で容器を取って、ライン上で飲水する。
- ・審判員もこの時に飲水してよい。飲み物は各コート本部に用意する。
- ・飲水タイムは30秒～1分間程度とし、戦術的な指示は許容されない。

以上

2016年8月7日改定

『JFA 熱中症対策^{※1}』

<A>

- ① ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
※全選手/スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペース。
※スタジアム等に備え付けの屋根が透明のベンチは、日射を遮れず風通しも悪いため使用不可。
- ② ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
※天然芝等の上でも、養生やバケツの設置等の対策を講じてスタジアム管理者の了解を得る。
- ③ 各会場に WBGT 計を備える。
- ④ 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
- ⑤ 観戦者のために、飲料を購入できる環境(売店や自販機)を整える。
- ⑥ 熱中症対応が可能な救急病院を準備する。特に夜間は宿直医による対応の可否を確認する。
- ⑦ [Cooling Break^{※2}]または飲水タイムの準備をする。

- ⑧ 屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しない。
- ⑨ 会場に医師、看護師、BLS(一次救命処置)資格保持者のいずれかを常駐させる。
- ⑩ クーラーがあるロッカールーム、医務室が設備された施設で試合を行う。

※公益財団法人 日本サッカー協会「熱中症対策ガイドライン」(2016年3月10日発行)より掲載

2016年8月7日改定